

Che

Fu

Ko

通信
Vol.14

2019年上半期活動

2019年4月26日～5月1日

ネパール 支援活動

2019年5月20日～26日

ウクライナ 支援活動

今号は2019年上半期の活動をまとめたものです。
内容は「ネパール支援活動」、「ウクライナ支援活動」の2本立て
になっています。この通信を機に、当団体の活動にご理解・ご協力
いただければ幸いです。

写真：ネパールで支援を行っている養護施設に新しく入所した子ども。
名前：ゴマ ラナ 両親の離婚によりこの施設に入った



ネパール Nepal

4月26日～5月1日にかけて、ネパールで支援活動を行いました。

2015年4月25日に発生したネパール大地震から4年が経ちました。私たちの団体は2015年5月からネパールで支援活動を始め、現地取材・調査を含め団体としては通算13回目のネパール訪問になります。

今回の活動内容は、①現地の方への温熱施術、②寄付金贈呈、③訪問先の学校および施設の子どもたちへの支援物資寄贈、④現地の子どもたちへの運動による教育支援、⑤支援先養護施設の子どもたちの生活を密着取材、⑥地震の被害を受けた村の復旧状況の調査でした。

カトマンズ郡では2カ所の施設を訪れ、首都カトマンズから約90km離れた所にあるシンドゥパルチョーク郡では3回目の訪問となる公立学校で活動を行いました。

温熱施術～ネパール人への健康支援～

現地で温熱研修を受けたネパール人の方々が施術者として協力をしてくれました。
協力していただいたお陰で温熱以外の活動も充実しました！



3カ所の施設・学校を訪れ、合計265人の方に施術を行いました。



現地の方の健康のためにストレッチや筋力トレーニングの紹介を載せたちらしも毎回お配りしています。

寄付金贈呈～皆様のご支援のお陰です！～

チェフコが継続して支援をしている2つの養護施設に、支援者の皆さまからの寄付金をお届けしました。

皆さまのお陰で子どもたちは学校に通うことができ、夢を叶えるために勉強を頑張ることができています。

男の子が暮らすラダクリシュナ・コミュニティセンター：20万円
女の子が暮らすライジングロータス：30万円

支援者の皆さま、支援をしていただきありがとうございます。
引き続きご支援よろしくお願ひいたします！



授業を受ける養護施設の子どもたち

支援物資寄贈～子どもたちの学習をサポートしたい～

ネパールは学歴社会です。勉強の成績によって子どもたちの将来が決まってしまうと言っても過言ではありません。しかし、貧しいために文房具を買うことができない子どもたちがたくさんいます。私たちは特に文房具が不足している地方の村の子どもたちに鉛筆などの文房具を届けています。



鉛筆を受け取るシバ校長

また現在ネパールの多くの学校ではパソコンの授業に力を入れています。将来的に技術を生かせるということで、子どもたちにパソコンの技術を身につけさせるためです。

2015年の地震の被害を受けたシンドゥパルチョーク郡の公立コロドウンデビ学校のシバ校長は、「地方の子どもたちにも、都会の子どもたちと同じようなレベルの教育を受けさせたい」と言います。

シバ校長はまた、遠くから通う生徒のために寮を建設したりと、全力で生徒のサポートをしようとしています。私たちは子どもたちのために尽力する先生たちとその子どもたちの力になっていきたいです。



寄付したPCを操作する先生

運動による教育支援

～子どもたちの心身の成長のために～

支援先の子どもたちに対して運動による教育支援を行いました。

シンドウパルチョーク郡の公立コロドウンデビ学校では
ドッジボールを実施！

ドッジボールはただボールを当てるだけでは勝てません。
仲間との協力が不可欠です！

子どもたちはうまくパスをまわして敵にボールを当てて
いました。男子だけでなく、女子も積極的にボールを受け
止め当てにいきます！



継続的に支援を行っている2つの養護施設「ラダクリシュナ・コミュニティセンター」「ライジングロータス」の子どもたちに対して**運動会**を実施！初めて2施設の子どもたちが対面し交流する場となりました。



最初は苦戦した大縄跳びも練習をして上達！下級生にとっては難しかったけど一生懸命がんばりました。



チーム対抗の協力リレー！
第3走者のタイヤ転がし



チームが優勝して
笑顔のクリシュナ

養護施設の子どものために**体カテスト**を実施しました。

今回の測定項目はボール投げ、50m走、20mシャトルランです。

子どもたち自身と子どもたちの成長を見守る大人が、子どもたちの身体の成長を把握することは大切なことだと考えています。

今後も引き続き体カテストを行っていきたいと思います。



記録の良かった子には
手作りのメダルを渡しました



20mシャトルランの様子
みんな力を出し切りました！

〈ソフトボール投げ〉

記録例：8歳男子14m／8歳女子20m

〈ハンドボール投げ〉

記録例：17歳男子26m／16歳女子15m

〈50m走〉

記録例：8歳男子11"69／8歳女子11"06
：17歳男子7"56／16歳女子9"90

〈20mシャトルラン〉

記録例：8歳男子13回／8歳女子9回
：17歳男子56回／16歳女子31回



集合写真

子どもたちは運動会も体カテストも楽しんでくれたようです！

支援先養護施設の子どもたちの生活を密着取材

チェフコが継続的に支援をしている「ラダクリシュナ・コミュニティセンター」の子どもたちの生活に密着しました！

子どもたちがどのような生活をしているのかを少し紹介したいと思います。

←現在施設で暮らしている4人の子どもたち:左からミラン、ティラク、クリシュナ、ディリップ



1



朝は5時頃に起きて5時半から約1時間お祈りをします

8



翌日の授業の準備をして21時頃就寝です

7



夕食は19時半頃みんなで床で食べています

6



12時半頃からお昼ですクリシュナ、ティラクの昼食はビスケットのみでした

2



8時頃朝食を食べます豆を炒めたものと小麦粉で作られるチャパティ

3



9時頃施設を出発し、徒歩15分をかけて学校へ向かいます年長のディリップが下級生の面倒を見ます

4



9時半から学校の朝礼が始まります

5



年中クラスで勉強するミラン

地震の被害を受けた村の復旧状況の調査



2015年の地震の被害を受けたシンドウパルチョーク郡ラタンコト村

〈トゥリマヤ・タマンさんの話〉

政府からの補助金30万円は全額受け取りましたが、家の完成には約90万円かかり、補助金で足りない分は借金をしました。息子1人と娘が3人おり、家を建てる際、働いている息子と次女からそれぞれ10万円ずつ支援してもらいました。定職に就いていませんが、月々1万円の借金返済のためにレンガ運びの日雇いの仕事をしています。月に1万2千円ほど稼げています。現在残り15万円の借金があります。



トゥリマヤ・タマンさん



2018年4月: 建築中のトゥリマヤさんの家(柱のみ)



2019年4月: 1階が完成したトゥリマヤさんの家



2019年4月: 1階の内装



ウクライナ Ukraine



子どもたちの交流

ジトーミル第12学校 / オブルチ第3学校



ウクライナの子供達と文化交流しました

ジトーミル第12学校とオブルチ第3学校を訪問し、日本の昔遊び（けん玉、コマ、折り紙、あやとり）や、日本の味を紹介する文化交流を行いました。

けん玉、コマはほとんどの子が初めてで、何度も挑戦して、やっとできた時の笑顔は格別でした。また、紙飛行機を作って誰が一番飛ぶかを競争しました。

食べ物は、飴玉、せんべい、チョコ菓子を用意し、飲み物は緑茶、みそ汁を準備しました。お菓子は、どれも美味しい！と好評でしたが、みそ汁は、味が苦手な子が多く、食べられない子どももいました。

短い時間でしたが、ウクライナの子供達のはじけるような笑顔にたくさん出会えました。



コンファレンス開催

「原発事故の人々の生活への影響～チェルノブイリと福島的事例～」

チェルノブイリ被害者の会の方、リクビデータ(事故処理にあたった軍人・消防士など)の方、小児科医、精神科医をお招きして、原発事故が人々の生活に与える影響について意見交換会を実施しました。



元避難民の方からは・・・

原発から直線距離で1キロしか離れていない村に住んでいた彼女は、避難先でガイガーカウンターを近づけたら数値がすごく高かったそうです。避難先の子どもと同じベットで寝ていたら、その子どもが放射能の影響で病気になってしまい、避難先の家族から責められて、とても辛かったそうです。

元避難民の方からは・・・

事故当時のことは、今、思い出したくないほど、怖かったそうです。事故の後、2日間、村にいて、避難する時は3日後に戻れると言われ、3日分の食料を持って避難しました。夫は事故の被害で亡くなりました。彼女は血液のガンで悩んでいます。今は子どもと孫の健康が心配です。

小児科医からは・・・

原発事故障がい者として認定されている子ども（両親が障がい者の認定を受けている）には定期検診が義務付けられており、検診に来た子どもの70%に健康異常が診られます。多いのは、目、神経、内分泌、甲状腺の異常とのこと。

原発事故処理に従事した元軍人からは・・・

事故当時、彼は化学処理班で放射能の洗浄液を作っていました。当時、被ばくの危険性は誰も分からなかったそうです。同じ班だった仲間は、亡くなったり、今も難病で悩んでいます。肺がんや血液の病気が多く、ストレスで亡くなった方もいるそうです。

温熱活動

カピタニヴカ・サナトリウム/チェルノブイリ・ホステージ基金/グラドコヴィチ幼稚園



①サナトリウムで初温熱！

昨年9月の現地調査で初めて訪問したカピタニヴカ・サナトリウムで、今回、初めて温熱を実施しました。保養中の人や医療スタッフ20人に温熱を行い、保養所のマッサージ師の方から、温熱を学びたいとの声も聞かれました。

②ドミトロ君と再会！

6歳になったドミトロ君と、チェルノブイリ・ホステージ基金事務所で再会しました。温熱も気持ちよさそうに1時間ほど受けました。他に、チェルノブイリ避難者の会の方など計21人が温熱を受けました。

③幼稚園で3回目の温熱施術

こちらでは、幼稚園の先生や園児の親、計13人に温熱施術を行いました。

施術人数：①カピタニヴカ・サナトリウム 20人
③グラドコヴィチ幼稚園 13人

②チェルノブイリ・ホステージ基金 21人
⇒ 合計54人

ジトーミル州立病院小児科



この病院は衛生面にとっても気をつけていて、今年、ウクライナで一番清潔な病院の認証をもらいました。
 昨年度のチェフコからの寄付金で、新生児のミルクを作るためのコンロ(写真右端)、哺乳瓶を殺菌する機器(写真中央)、電気ポットを購入しました。

ジトーミル精神病院小児病棟



病院の年間患者700人の内、医長の意見では35~40%が原発事故の影響を受けた染色体異常や自閉症等です。自閉症の患者が36人(2014年)から、280人(2019年)に増加しており、原発事故30年後に被害者が増えると言われていたことから、今後どうなっていくのか注目されます。
 昨年度の寄付金で、すべり台の形の室内遊具(写真中央)、ローラー状の遊具、マット2枚を購入しました。

グラドコビッチ幼稚園



幼稚園に到着すると、卒園式が行われていて、子ども達の出し物のゲームにチェフコ職員も参加して交流しました(写真左端)。また、日本からのお土産のお菓子を、子ども達一人一人に手渡しました(写真中央)。昨年度の寄付金で、子ども達が荷物をしまうロッカー(写真右端)を購入しました。

オブルチ地区病院産婦人科



この病院ではナロジチ地区とオブルチ地区の妊婦を受け入れています。原発事故の影響で、地域の子どもの数は減っているそうです。
 昨年度の寄付金で、新生児や妊婦に使用する吸入器(写真右端)2台を購入しました。



皆様からお預かりした 寄付金をお渡ししました



ご支援ご協力ありがとうございました

- ①チェルノブイリ・ホステージ基金 約11万円(1,000ドル)
- ②ジトーミル州立病院小児科 約8.8万円(800ドル)
- ③ジトーミル精神病院小児病棟 約7.7万円(700ドル)
- ④オブルチ地区病院産婦人科 約5.5万円(500ドル)
- ⑤ジトーミル第12学校 約5.5万円(500ドル)
- ⑥オブルチ第3学校 約5.5万円(500ドル)
- ⑦グラドコビッチ幼稚園 約5.5万円(500ドル)

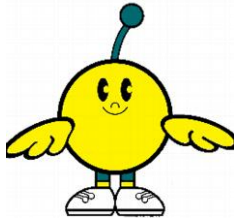


お知らせ

【2019年8月 ウクライナ & 福島交流プログラム】

2018年に引き続き、本年度もウクライナの子どもたちを福島へ招待する交流プログラムの実施に向け、参加者の選考会を開きました。今回も前回に引き続きチェルノブイリ原発事故の影響が深刻なオブルチ市の第3学校の生徒を招待します。今回は南相馬市の中学校訪問、福島での廃炉資料館見学や茶道体験、そして東京観光などを予定しています。日本での体験を彼らの将来に是非、活かしてほしいと思いながら現在、プランを作成中です。

Fukushima



(写真左から)

コノンチャック・アナスタシア(15)
絵を描くのが得意で受賞も多数。
絵の販売もしている。他の趣味は、
料理と刺繍。

コミッチ・スベトラーナ(13)
ダンスが得意で成績優秀。
趣味は詩の暗唱とビーズ刺繍。

チョルノクニジニ・ロスティスラブ(13)
針金アートが得意。趣味はコン
ピューターゲームを作ること、写真撮
影、スノーボード。

Ovruch



コメンコ・デニス(13)
手先が器用で、おもりの人形など
を作る。趣味は総合格闘技。料理も
得意でピザやケーキを作る。



2019年度CheFuKo活動報告会:

2020年2月6日(木)決定!!

時間は19:00-21:00を予定しております。

1年間の活動内容をご報告致します。ぜひ、お越しください!



【職員編集後記】

令和最初のチェフコ通信いかがでしたでしょうか! ?この通信を通して私たちの活動内容が皆様に伝わればと思います。ここに掲載された以外の活動では毎月、福島に温熱ボランティアに行ったり、外部のボランティアイベントに参加をしたり、ベネズエラの子どもたちへの寄付金を募る活動をしています。活動にご興味をもたれましたらいつでもご連絡くださいませ。お待ちしております。

発行: 一般社団法人 世界の子供たちのために(CheFuKo)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5-1住友不動産御茶ノ水ファーストビル8階

TEL: 03-5577-3155 FAX: 03-3291-0011

E-mail: info@chefuko.org URL: <http://www.chefuko.org>



<https://www.facebook.com/CheFuKo/>



@CheFuKo_japan



Instagram

CheFuKo通信 vol.14
2019年7月5日発行

